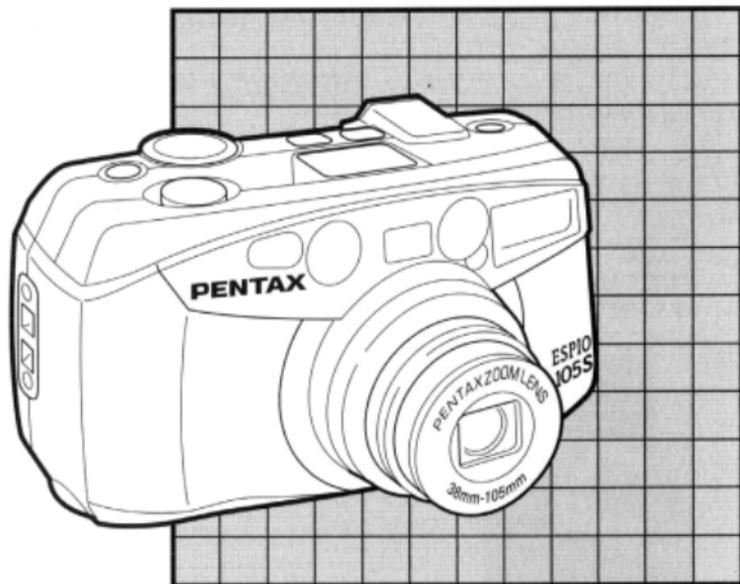


PENTAX®

ESPIO105S

使用説明書



カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびは、ペンタックス **ESPIo105S**（エスピオ105S）をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ105S」は、38ミリ広角から105ミリ望遠までのズームを備えたズームコンパクトカメラです。

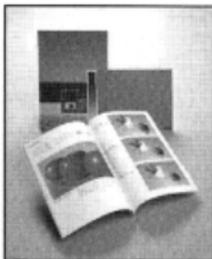
・説明文中の 内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。

・本文中の写真・イラストは、実際の製品と異なる場合があります。

・55、56ページに切り取って使える「クイックガイド」がありますので、ご利用ください。

「林檎の秘密」(有料)

すぐに役立つ写真の基礎知識



露出の仕組みや光の測り方、ピントの合わせ方など写真の基礎を豊富なイラストと作例でわかりやすく解説しています。お買い求めは、ペンタックスサービス窓口・ペンタックスファミリーまたは、最寄りのカメラ店で。

記号について

操作の方向	
自動的に動きます	
注目してください	
点灯します	
点滅します	
正しい	
間違い	

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、2ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性のあることを示すマークです。

⊘ は、禁止事項を表わすマークです。

⚠ は、注意を促すためのマークです。

⚠ 警告

- ⊘ カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。
- ⊘ 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ⊘ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようご注意ください。

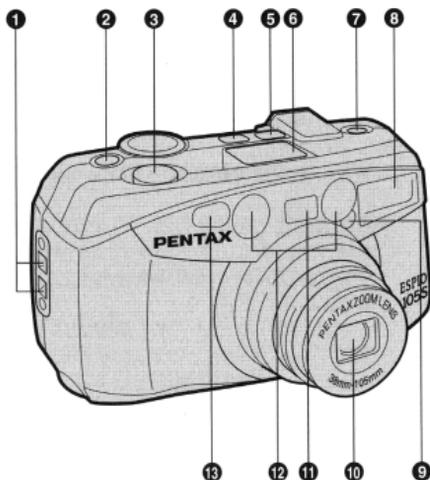
⚠ 注意

- ⊘ 電池をショートさせたり、火の中に入れてしないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ⚠ 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

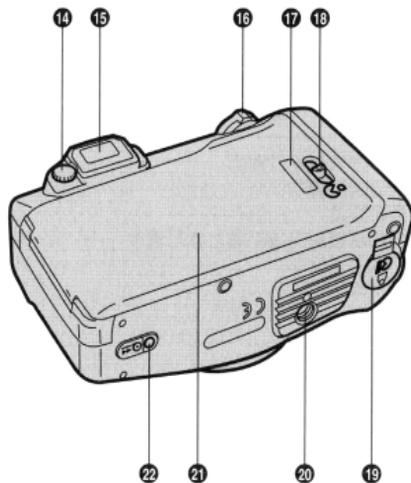
- ・汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- ・高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- ・防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- ・このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
- ・強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。

- ・レンズ、ファインダー窓のホコリはブローで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- ・業務用または過酷な条件での使用には、お勧めできません。
- ・高性能を保つため、1~2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- ・カメラの使用温度範囲は-10℃~50℃です。
- ・急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ・ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

各部の名称

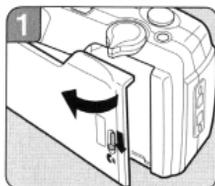


- ① ストラップ通し [11ページ]
- ② 電源スイッチ [12ページ]
- ③ シャッターボタン [13ページ]
- ④ セルフ/遠景ボタン [31ページ]
- ⑤ ストロボ/バルブボタン [30ページ]
- ⑥ 表示パネル [48ページ]
- ⑦ 赤目軽減ボタン [30ページ]
- ⑧ ストロボ発光部
- ⑨ セルフタイマーランプ [38ページ]
- ⑩ レンズ
- ⑪ ファインダー窓
- ⑫ 測距窓
- ⑬ 受光窓

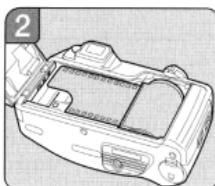


- ⑭ 視度調整ダイヤル [20ページ]
- ⑮ ファインダー接眼窓
- ⑯ ズームレバー [14ページ]
- ⑰ フィルム情報窓
- ⑱ 裏ぶた開放レバー [16ページ]
- ⑲ 電池ぶた [43ページ]
- ⑳ 三脚ネジ穴
- ㉑ 裏ぶた [16ページ]
- ㉒ 途中巻き戻しボタン [29ページ]

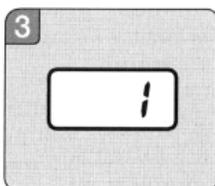
カメラを安全にお使いいただくために	1	いろいろな撮影をしましょう	
取り扱い上の注意	3	いろいろな機能の選び方/赤目軽減機能	30
使い方は簡単です	7	日中シンクロ撮影	32
こんな写真を撮るには?	8	低速シャッター撮影	33
撮影前の準備をしましょう		低速シンクロ撮影	34
1. ソフトケース	10	バルブ撮影	35
2. ストラップ	11	バルブシンクロ撮影	36
3. 電源を入れてみましょう	12	セルフタイマー撮影	37
4. カメラの構え方	13	遠景撮影	39
5. ズーミングを試みましょう	14	フォーカスロック撮影	40
フィルムを入れて撮影しましょう		電池の消耗警告	42
1. フィルムを入れましょう	16	電池の交換	43
・フィルム感度について	19	ストロボ撮影可能距離と赤目現象	45
2. 視度調整	20	こんなときは?	46
3. ファインダー内表示	21	表示パネル	48
4. ランプ表示	22	主な仕様	50
5. 撮影しましょう	23	さくいん	52
・ストロボ自動発光	25	クイックガイド	55
・ピント合わせの苦手な物	26	アフターサービスについて	57
6. フィルムを取り出しましょう	27		
・フィルムの途中巻き戻し	29		



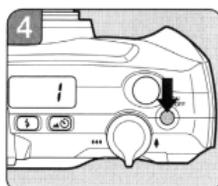
裏ぶたを開けます。
[16ページ]



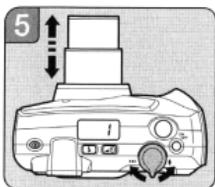
フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。
[17ページ]



自動的に1コマ目まで巻き上がります。
[18ページ]



電源を入れます。
[12ページ]



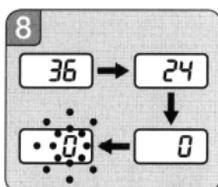
ファインダーをのぞき、ズームレバーを左右に動かして写したい物の大きさを決めます。
[14ページ]



ピントを合わせたいものにファインダー内の [] を合わせます。
[23ページ]



シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります。
[24、25ページ]



フィルムが終わると自動的に巻き戻しが始まります。
[27ページ]

こんな写真を撮るには？



ピント関係

- 遠くの風景を撮りたい39
- 窓越しに風景を撮りたい39



ストロボ関係

- 暗い所で写真を撮りたい25
- ストロボ撮影で目が赤く写らないようにしたい30、45
- 帽子などで影になっている人物の顔を明るく写したい32
- 夕景をバックに人物を写したい34
- 夜景をバックに人物を写したい36



ズーミング関係

- 写したい物を大きくしたり小さくしたりしたい14



人物撮影関係

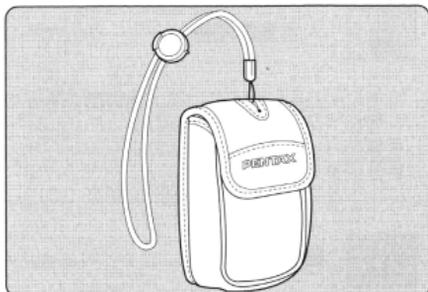
帽子などで影になっている人物の顔を明るく写したい	32
夕景をバックに人物を写したい	34
夜景をバックに人物を写したい	36
自分自身も写真に写りたい	37



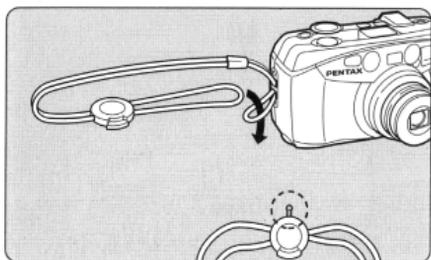
風景撮影関係

夕景をバックに人物を写したい	34
夜景を撮りたい	35
夜景をバックに人物を写したい	36
窓越しに遠くの風景を撮りたい	39

撮影前の 準備をしましょう



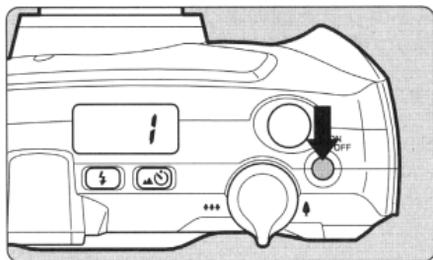
カメラをケースに入れるときは、電源をOFFにしてください。[電源OFFについては、12ページをご覧ください。]



ストラップを図のように、カメラのストラップ通しに通します。

*ストラップの図の部分は、フィルムの途中巻き戻しや電池ふたを開けるときにご使用ください。

電源を入れてみましょう



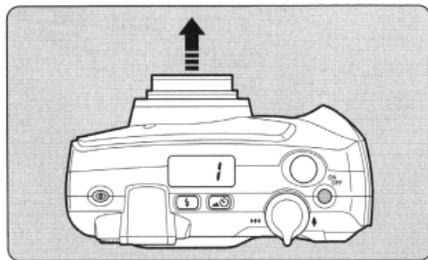
電源スイッチを押すと電源が入ります。

[電源ON]

もう一度押すと電源が切れます。[電源OFF]

*カメラを使用しないときは、必ず電源をOFFにしてください。

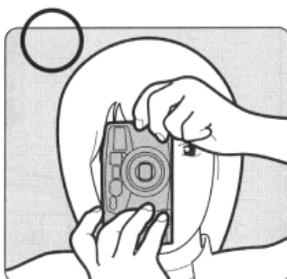
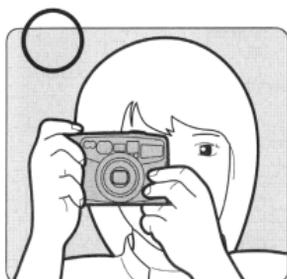
*電源をONのまま放置した場合、放置後約3分間たつと、自動的に電源がOFFになります。



電源を入れるとレンズカバーが開き、レンズが少し前に出ます。

*表示パネルに [] マークが出ているときは、電池が消耗していますので、電池を交換してください。42、43ページをご覧ください。

*3Vリチウム電池 [CR123A相当品] 1本を使用します。



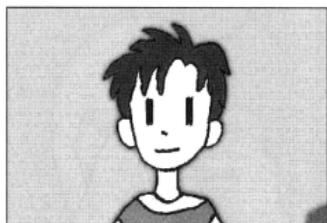
撮影するときは、カメラを両手でしっかり持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。
[強く押すとカメラが動いて、きれいな写真が撮れません。]

- ・レンズはズーミングをしたり、シャッターボタンを押して撮影することにより動きます。落下などの原因になりますので、レンズ部分を持たないでください。
- ・カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさぐと、ピンボケ・露出不足・露出オーバーなどの原因になります。

*木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させるのも良い方法です。

*カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するときは、ストロボが上になるようにしましょう。影が自然な方向に出ます。

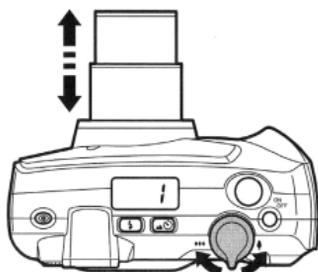
14 ズーミングをしてみましょう [38~105mmの範囲でズーミングできます]



望遠側



広角側



ズームレバーを▲側に戻すと、遠くのを大きく写せる105mm側 [望遠]、△側に戻すと広い範囲を写せる38mm側 [広角] になります。

*ファインダーを見ながら、写したいものが好みの大きくなったところで止めて撮影してください。

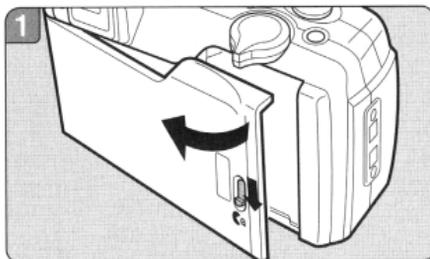
*比較的手ぶれを起こしにくいISO400のフィルムの使用をお勧めします。

・ズームレンズには、無理な力を加えないでください。また、レンズを下向きに置かないでください。レンズに無理な力が加わります。

フィルムを入れて 撮影しましょう

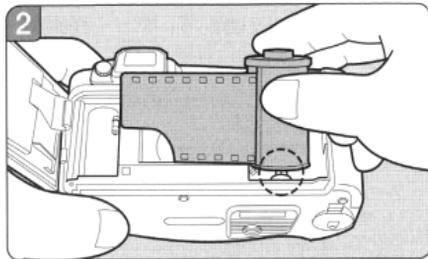
フィルムは、一通り説明書を読んでカメラの操作に慣れてから入れましょう。

フィルムを入れましょう



1. 裏ぶた開放レバーを下方向に押し下げ、裏ぶたを開けます。

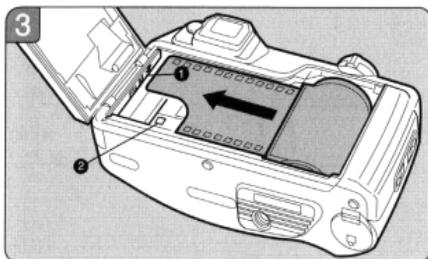
・フィルムを入れるときは、直射日光が当たらない所で行ってください。



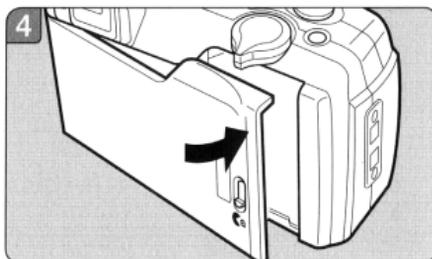
2. フィルムの凸側を上にして、下側から先に突起に差し込むように斜めに入れ、次に上側を入れます。

*フィルムを入れるときは、電源OFFで行なってください。レンズが自動的に動いて、カメラを落とす危険があります。

*フィルムは、一通り説明書を読んでカメラの操作に慣れてから入れましょう。



3. フィルムの先端を①のフィルム先端マークまで引き出します。



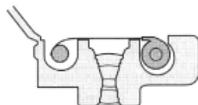
4. 裏ぶたを閉じると、フィルムが自動的に巻き上げられ、1枚目まで進みます。

*フィルム検知部②にゴミなどが付着するとフィルムが正しく巻き上げられません。

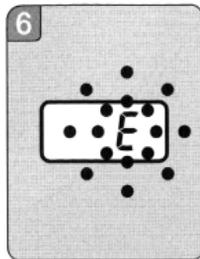
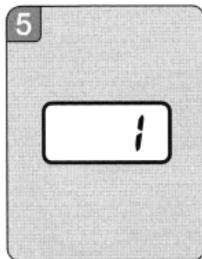
- ・フィルムがまっすぐ入っていることを必ず確認してください。
- ・下図のように、フィルムはたるみがないように入れてください。
- ・フィルムの先端が長く出すぎているときは、フィルムをパトローネに少し押し戻します。
- ・フィルム先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直してください。



×フィルムのたるみあり



○フィルムのたるみなし



5. 図のように、フィルム枚数表示の \boxed{i} が出て自動的に止まります。必ず枚数表示が \boxed{i} になっていることを確認してください。

6. フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに \boxed{E} が点滅して知らせます。フィルムを正しく入れ直してください。

*フィルム枚数は、電源がOFFにしても5秒間表示されます。

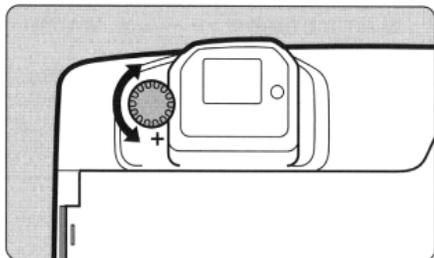
フィルム感度について フィルム感度自動セット

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。

- *ISO25～3200までのフィルムが使えます。
- *フィルム感度は、手ぶれ防止やストロボ撮影に有利なISO400の使用をお勧めします。

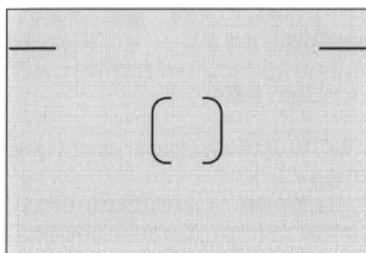
- ・ISO800以上の高感度DXフィルムは、室内や暗い所での撮影用としてご利用ください。
- ・ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムではフィルム感度が25にセットされてしまいますので使用できません。

視度調整



*視度調整は、ご使用前に必ず行ってください。

1. カメラを明るい方へ向け、ファインダーをのぞきながら図のように視度調整ダイヤルを動かします。
2. ファインダー内の [] の線が最もはっきり見える位置に調整します。

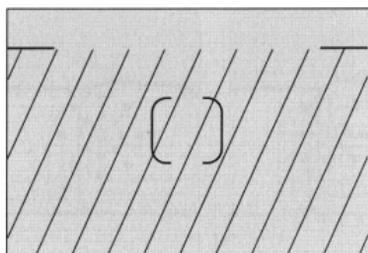


ファインダーを覗くと、図のような表示が見えます。ファインダーを覗いたときに見える範囲が写真に写る範囲です。

〔 〕表示

ピントが合う範囲です。この内側にピントを合わせたい物を入れて撮影してください。

*ファインダー内の表示が見えにくいときは、視度調整を行なってください。[20ページをご覧ください]

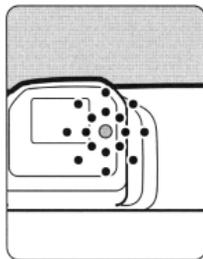
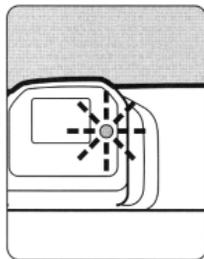


1m以下での撮影の場合

撮影距離が1m付近より手前の場合、図の斜線部分が写真に写る範囲になります。写したい物をこの範囲内に入れて撮影してください。

*サービスサイズのカラードリフトでは、画面周囲の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

ランプ表示

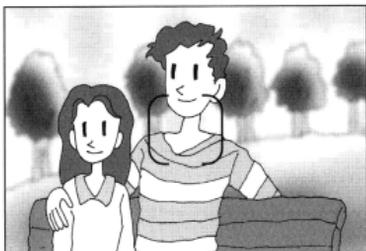


ファインダー接眼窓の右横には、緑色のランプ表示があります。

点灯：ピントが合っています。撮影できます。
点滅：撮影距離が近すぎたり、ピント合わせの苦手なものでピントが合わないときが、ストロボの充電中です。

*ランプは、シャッターボタンを少し押さないと表示されません。
 *極端に近距離の場合、ランプの点滅はしません。

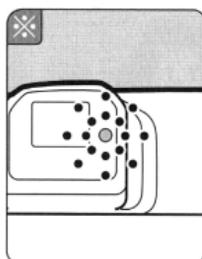
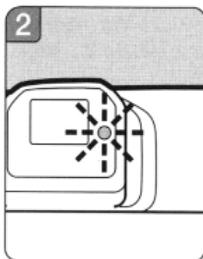
1



* サービスサイズの色刷りでは、画面周囲の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

1. ファインダー内の  をピントを合わせたい物に合わせます。

24



2. シャッターボタンを少し押すと自動的にピントが合い、緑ランプ  が点灯します。
3. 緑ランプ  の点灯後、そのままシャッターボタンを押して撮影します。

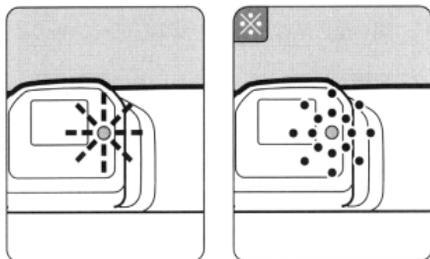
※緑ランプ  が点滅した場合

緑ランプ  の点滅は、ピントが合っていないか、ストロボ充電中です。撮影するときは、緑ランプの点灯を確認してください。

* 一度緑ランプ  が点灯してから別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。

* 撮影できる距離は、0.65mより遠くです。

- ・ 緑ランプ  の点滅中は、シャッターはきけません。
- ・ カメラ前面の測距窓が汚れていると、正しいピント合わせが出来なくなりますのでご注意ください。



ストロボ自動発光

このカメラでは、写したいものが暗いときや逆光のときに、ストロボが自動的に発光します。シャッターボタンを少し押して、緑ランプ  と表示パネルの  が点灯すれば、ストロボが発光します。

*このカメラには、セルフタイマーランプ点灯による赤目軽減機能が付いています。詳しくは30ページおよび45ページをご覧ください。

*ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。

ストロボ撮影できる距離 [ネガカラーフィルム使用時]

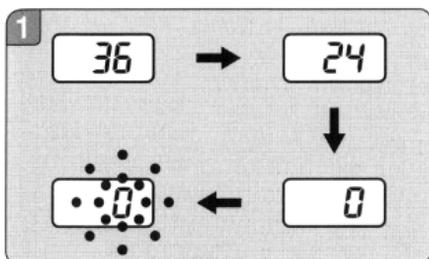
レンズ \ ISO	100	200	400
38mm ()	0.65~4.1m	0.65~5.8m	0.65~8.2m
105mm ()	0.65~1.7m	0.65~2.4m	0.65~3.3m

これ以外のフィルム感度については、45ページをご覧ください。

ピント合わせの苦手な物

オートフォーカスは、万能ではありません。写したい物の条件が右の例のような場合、ピントの合わない場合があります。そんなときは、写したい物とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしてください。フォーカスロックについては、40ページをご覧ください。

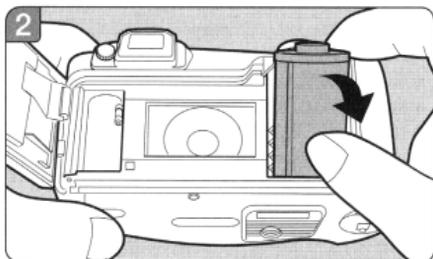
1. 黒い髪の毛など、光を反射しにくいもの。
2. 金網、格子など、面積が小さいもの。
3. ネオンや蛍光灯・木もれ日などの点滅光源や、それによって強く照明されているもの。
4. ガラスや鏡、車のボディなど、光沢があって反射するもの。
5. 速いスピードで動いているもの。
6. 噴水・水面・炎・花火など、形のはっきりしないものや霧の中のもの。



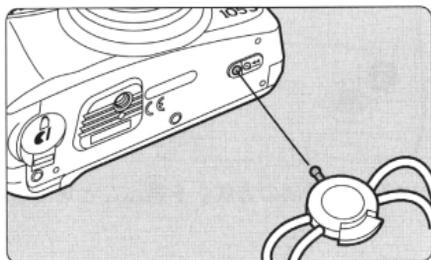
- *巻き戻しは、レンズが自動的に収納されてから行われます。
- *巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。
- *巻き戻し中は、撮影枚数が逆算表示されます。
- *巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、すべて巻き込まれます。

- ・フィルムの規定枚数を越えた最後のコマが、現像処理でカットされることがあります。
- ・規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムの最後まで進んでから巻き戻しが行われます。

1. フィルムの最後まで撮り終わると、自動的に巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように5秒間「0」が点滅して知らせます。



2. 裏ぶたを開け、フィルムを図のように上側から先に取り出します。



フィルムの途中巻き戻し

フィルムを規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときにご利用ください。

1. カメラ底面のフィルム途中巻き戻しボタン をストラップの突起で押します。[巻き戻しが始まります]
2. 巻き戻しが終わると、モーターは止まり表示パネルの が点滅して知らせます。
3. 表示パネルの の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

*巻き戻しボタンを押すと、レンズが自動的に収納されます。

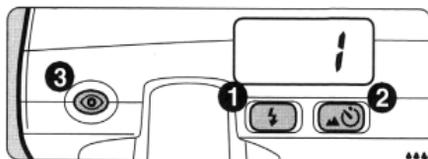
*フィルムが完全に巻き取られるまで、裏ふたを開けないでください。

*途中巻き戻しは、電源がON、OFFどちらでも可能です。

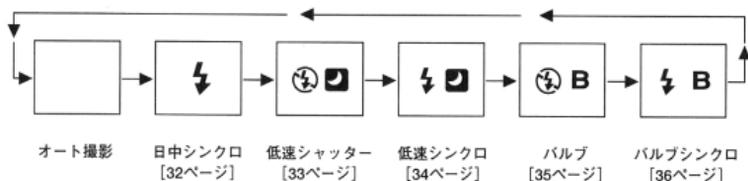
・ストラップ留め具以外で巻き戻しボタンを押さないでください。巻き戻しボタンを傷付けることがあります。

いろいろな機能の選び方／赤目軽減機能

いろいろな撮影をしましょう



①の ストロボ/バルブボタンを押すと、いろいろな「露出の方式」を選ぶことができます。

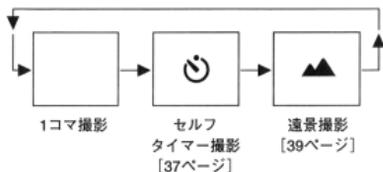


*通常の撮影では、「オート撮影」に合わせてください。電源を一旦OFFにすると「オート撮影」に戻ります。

*「オート撮影」以外でシャッターを一度切って撮影した後に①のボタンを押すと、「オート撮影」に戻ります。

*③の赤目軽減ボタン を押して表示パネルに を表示させておくと、撮影前にセルフタイマーランプが点灯し、目が赤く写るのを目立たなくすることができます。もう一度押すと解除されます。赤目現象については、45ページもご覧ください。

②の  セルフ／遠景ボタンを押すと、1コマ撮影・セルフタイマー撮影・遠景撮影を選ぶことができます。



*セルフタイマー撮影では、シャッターを一度切った後に  のボタンを押すと「1コマ撮影」に戻ります。

*通常の撮影では、「1コマ撮影」に合わせてください。電源を一旦OFFにすると「1コマ撮影」に戻ります。



日中シンクロ撮影 [ストロボ強制発光]



昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が暗くなってしまうときに、このモードを使うと常にストロボが発光しますので、影の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行いたいときにもご利用ください。

ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに  表示を出し撮影します。

・日中シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。25ページをご覧ください。



ストロボなし



ストロボ使用 日中シンクロ



夕景などの撮影や暗くてもストロボが使えない場所〔劇場、美術館など〕での撮影にご利用ください。ストロボを発光させませんので、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真を楽しめます。

・低速シャッター撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。

ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに \square 表示を出し撮影します。



夕景などを背景に人物撮影をするときに使います。



ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに \square 表示を出し撮影します。

*低速シンクロでは、人物にストロボ光を当て、背景は遅いシャッター速度で、どちらもバランス良く撮影できます。

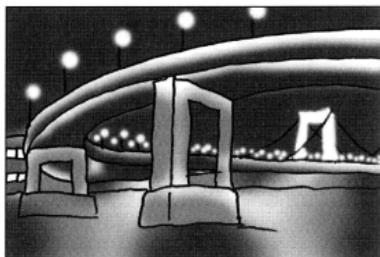
・低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。
・低速シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。25ページをご覧ください。



花火や夜景の撮影など、シャッターを長時間開き続けて撮影をする場合にご利用ください。

ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに 表示を出し撮影します。

*シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約5分]



・バルブ撮影では、手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。



夜景などを背景にした人物撮影に使います。

ストロボ／バルブボタンを押して表示パネルに 表示を出し撮影します。

*バルブシンクロでは、バルブ撮影でストロボを発光させます。人物にはストロボ光を当て、背景は長時間のシャッター速度で、どちらもバランス良く撮影できます。

*シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約5分]

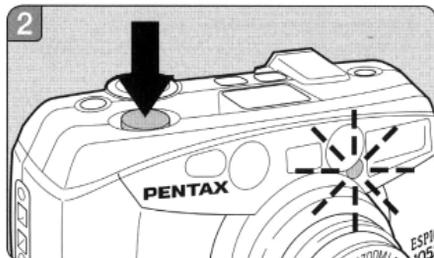
- ・バルブシンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。25ページをご覧ください。
- ・バルブシンクロ撮影では、シャッターボタンを押している間、シャッターが開きつづけます。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。



*撮影時は三脚などを使用してください。

撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。

1. セルフ/遠景ボタンを押して、表示パネルに表示を出します。



2. 写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、セルフタイマーがスタートします。

*セルフタイマーの作動中は、表示パネルのの点滅とセルフタイマーランプの点灯で知らせます。シャッターが切れる約3秒前からセルフタイマーランプは点滅に変わります。

*約10秒後にシャッターが切れます。
*セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、シャッターボタンと途中巻き戻しボタン以外の操作ボタンを押してください。

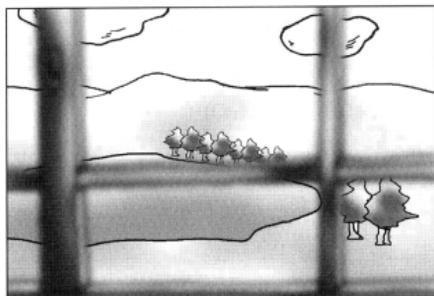
・カメラ前面に立ってセルフタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなることがありますのでご注意ください。
・緑ランプ点滅中は、ランプを点灯させてからセルフタイマーを起動させてください。



金網やガラス越しの遠くの風景などを撮影するときにご利用ください。誤って金網やガラスにピントが合ってしまうのを防げます。

セルフ/遠景ボタンを押して、表示パネルに \triangle 表示を出し撮影します。

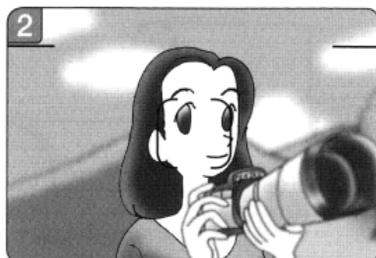
- *一度撮影をすると遠景撮影は解除されます。
- *露出方式が「オート撮影」では、暗くてもストロボは発光しません。



フォーカスロック撮影

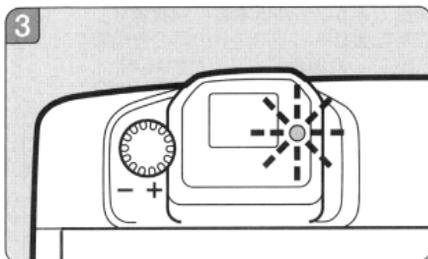


1. このイラストのような構図の写真を撮る場合、そのまま撮影すると人物の顔にピントが合わず、手前のものにピントが合ってしまう。
こんな場合は、フォーカスロック撮影を行います。



2. \square を、ピントが合っている手前のものから一旦外し、人物の顔（ピントを合わせたいもの）に合わせます。

イラストのように、 \square 内に遠近のものが混在する場合は、いちばん手前のものにピントが合います。



3. シャッターボタンを少し押し、ピントを合わせ、緑ランプを点灯させたままにします。



4. そのままシャッターボタンから指を離さずに、写したい構図に戻してシャッターをきります。

- * 緑ランプ点灯中は、ピントが固定されます。[フォーカスロック]
- * シャッターボタンから指を離すと、フォーカスロックは解除されます。

電池の消耗警告

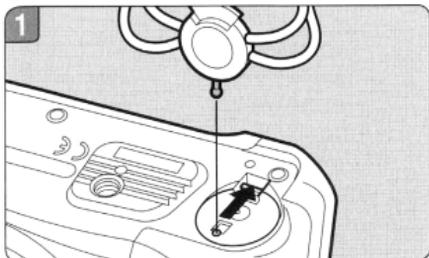


電池が消耗してくると表示パネルに図の  マークが出て警告します。早めに新しい電池と交換してください。  が点滅になると、シャッターが切れなくなります。

- * 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。

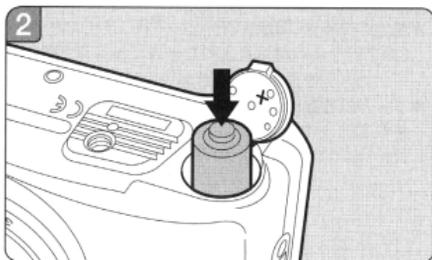
撮影できるフィルム本数 [24枚撮り]
 通常の撮影モードでストロボの使用率を
 50%にした場合 約15本
 [CR123A電池・当社試験条件による]

- * あらかじめカメラにセットされている電池はサンプル用の電池のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。



- *電池の交換は、電源をOFFにして行ってください。ONで行うと、電池を入れたときにレンズが動いて、カメラを落とす危険があります。
- *フィルム枚数は、電池交換をしてもそのまま記憶されています。

1. ストラップの突起を利用して、電池ぶたを開けます。



2. 電池ぶた裏側の十表示に合わせて、リチウム電池を正しく入れ電池ぶたを閉じます。

使用電池……3Vリチウム電池
CR123A相当品 (1本)

- * 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときには、予備電池をご用意ください。
- * 電池を交換しても正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。

ISO100、200、400以外のフィルムを使用したときのストロボ撮影距離範囲 [ネガカラーフィルム使用時]

レンズ \ ISO	25	50	800	1600	3200
38mm (◆◆◆)	0.65~2.0m	0.65~2.9m	0.65~11.6m	(*) 0.80~16.3m	(*) 1.2~23.1m
105mm (◆)	0.65~0.8m	0.65~1.2m	0.65~4.7m	0.65~6.7m	0.65~9.5m

(*) 高感度のため近距離では露出オーバーになることがあります。

ストロボ撮影の赤目現象

ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側で撮影すると、発生しにくくなります。

このカメラには、撮影前にセルフタイマーランプを点灯させ、瞳を小さくしてからストロボ撮影を行なうことで、目が赤く写るのを目立たなくする「赤目軽減機能」があります。セット方法は、30ページをご覧ください。

こんなときは？ [詳しくは、各ページをご覧ください]

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因・対処
症状1：シャッターが切れない。	原因・対処1： <ul style="list-style-type: none"> 電源がOFFになっていませんか。電源を入れてください。[12ページ] 電池は入っていますか。電池が消耗していませんか。[42ページ] 表示パネルに[F]が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。[16、27ページ] 表示パネルに[E]が点滅している場合は、フィルムが正しく入っていません。正しく入れ直してください。[18ページ]
症状2：写真の出来が良くない。	原因・対処2： <ul style="list-style-type: none"> ピントを合わせたいものにファインダー内の[□]を正しく合わせて撮影してください。[23ページ] 指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。[13ページ] 測距窓が汚れていませんか。[13ページ]
症状3：ズームレンズが勝手に収納され、電源OFFになった。	原因・対処3： <ul style="list-style-type: none"> 電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源OFFになります。[12ページ]

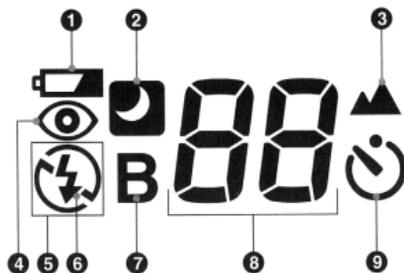
症状	原因・対処
症状4： 暗くないのにストロボが発光する。	原因・対処4： ・逆光でも自動的にストロボが発光します。[25ページ] ・表示パネルに[5]が表示されていませんか。[32、34、36ページ]
症状5： 表示パネルに[H]、[U]の表示ができる。	原因・対処5： ・ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのままご使用になれますが、度々出る場合には故障の可能性があります。



このマーク（CE）は、安全性・環境および消費者保護に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとは、フランス語のComunit  Europ en（欧州共同体）の略語です。

表示パネル

この図は、液晶表示を全部表示した状態を表しています。



各部の名称

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| ①電池消耗警告……………[42ページ] | ⑥ストロボON ……………[32、34、36ページ] |
| ②低速シャッター ……………[33、34ページ] | ⑦バルブ ……………[35、36ページ] |
| ③遠景……………[39ページ] | ⑧フィルム枚数……………[18ページ] |
| ④赤目軽減……………[30ページ] | ⑨セルフタイマー……………[37ページ] |
| ⑤ストロボOFF ……………[33、35ページ] | |

液晶表示 [LCD] について

- ・約60℃の高温では液晶表示が黒くなるありますが、常温に戻れば正常になります。
- ・低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなるがあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

主な仕様

- 形式……………ズームレンズ内蔵フルオート35mmレンズシャッターカメラ
- 使用フィルム……………35mmDXフィルム専用 [135パトローネ入り] ISO25~3200自動感度セット [1EVステップ]
DX以外=ISO25固定
- 画面サイズ……………24×36mm
- フィルム入れ……………オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ
- 巻き上げ……………自動巻き上げ式
- 巻き戻し……………フィルム終了時自動巻き戻し式 [巻き戻し時間：24枚撮りフィルムで約20秒] 巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能
- 撮影枚数……………自動復元順算式、巻き戻しに連動 [減算]
- 外部表示……………表示パネルにLCD液晶表示
- レンズ……………38~105mmF4.5~11電動ズームレンズ 5群6枚 画角 [対角線] 59° ~23.5°
- ピント合わせ……………アクティブAF方式、フォーカスロック付き、測距範囲=0.65m~∞、[最大倍率約0.188×]、遠景撮影あり [ピントは無限遠に固定]
- ズーミング……………電動式
- シャッター……………プログラムAE電子式シャッター=約1/360~1秒、バルブ [1/2秒~5分]、電磁レリーズ式
- セルフタイマー……………電子式ランプ表示、作動時間約10秒、作動後の解除可能
- ファインダー……………実像式ズームファインダー、視野率83%、倍率0.42× [38mm側] 1.03× [105mm側] 視度調整付き-3~+1m⁻¹ [毎メートル]、オートフォーカスフレーム、近距離視野補正枠、緑ランプ 点灯：撮影可能 点滅：測距不能・近距離警告・ストロボ充電中

- 露出……………プログラム式自動露出 [マルチ測光]
露出連動範囲 [ISO400] オート、日中シンクロ時=EV10~EV17 [38mm側] EV14~EV19 [105mm側] 低速シャッター撮影時=EV6.5~17 [38mm側] EV7~19 [105mm側] 逆光時自動露出補正機能付
- 露出計スイッチ……………シャッターボタン
- ストロボ……………ズームオートストロボ内蔵 [赤目軽減機能付き]、オート=低輝度、逆光時自動発光、ストロボON=日中シンクロ/低速シンクロ [1秒まで使用可能]
バルブシンクロ=1/2秒~5分
- ストロボ撮影範囲…………… [ISO400使用時] 38mm側=0.65~8.2m、105mm側=0.65~3.3m
- ストロボ充電時間……………約5秒 [当社試験条件による]
- 電源……………3Vリチウム電池 [CR123A相当品] 1本使用
- 撮影可能本数……………24枚撮りフィルム使用時 約15本 [ストロボ50%使用、当社試験条件による]
- 電池消耗警告……………表示パネルに  が点灯、点滅時シャッターロック
- 大きさ・質量 [重さ] ……118.5 [幅] ×69.0 [高さ] ×54.0 [厚み] mm 240g [電池別]
- 付属品……………ストラップEJ、ソフトケースES

あ行

赤目軽減機能	30
赤目軽減ボタン	30
赤目現象	45
アフターサービス	57
裏ふた	16
裏ふた開放レバー	16
液晶表示 [LCD]	48
遠景撮影	39
オート撮影	30

か行

各部の名称	4
カメラの構え方	13
こんな写真を撮るには?	8
こんなときは?	46

さ行

自動電源オフ	12、46
視度調整	20
仕様	50
使用電池	44
シャッターボタン	13
ストラップ	11
ストロボ撮影	25、32、34、36
ストロボ強制発光	32
ストロボ自動発光	25
ストロボ発光禁止	33、35
ストロボ/バルブボタン	30
ズームイン	14
ズームレバー	14
セルフタイマー撮影	37
セルフタイマーランプ	38

セルフ/遠景ボタン	31
ソフトケース	10

た行

途中巻き戻し	29
低速シャッター撮影	33
低速シンクロ撮影	34
手ぶれ [カメラぶれ]	33、34、35
電源を入れる	12
電源を切る	12
電池交換	43
電池消耗警告	42
電池ふた	43
取り扱い上の注意	3

な行

日中シンクロ撮影	32
----------	----

は行

バルブ撮影	35
バルブシンクロ撮影	36
表示パネル [液晶表示]	48
ピント合わせ	23、26、40
ファインダー	21
フィルム感度	19
フィルム検知部	17
フィルム先端マーク	17
フィルムを入れる	16
フィルムを途中で取り出す	29
フィルムを取り出す	27、29
フォーカスロック	26、40

ま行

緑ランプ点灯	22、24、41
緑ランプ点滅	22、24
目次	6

ら行

レンズ	15
-----	----

英数字

CEマーク	47
DXフィルム	19

PENTAX[®] ESPIO105S クイックガイド

クイックガイド（このページは、切り取ってソフトケースなどに入れてお使いください。）
こんな写真を撮りたいと思ったときに、表示パネルに下の表示を出すだけで簡単に撮影ができます。

ボタン

オート

最も一般的なモードです。暗い所や逆光では、自動的にストロボが発光します。

日中シンクロ

明るくても暗くても常にストロボが発光します。帽子をかぶった人物撮影など、逆光以外で人物が暗くなってしまう時に使います。

低速シャッター

暗くてもストロボを発光させません。ストロボが使えない美術館や室内の照明を利用した撮影をしたいときに使います。

低速シンクロ

夕景をバックにした人物撮影などで、人物にストロボを当てることで、夕景と人物をバランスよく撮影できます。

バルブ

花火や夜景の撮影に使います。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。

バルブシンクロ

バルブ撮影でストロボを発光させます。夜景をバックにした人物撮影などに使います。

ボタン

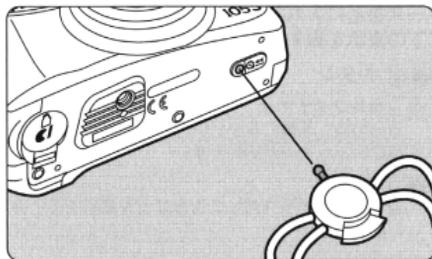
セルフタイマー

自分自身も写真に写りたいときに使います。10秒後にシャッターが切れます。

遠景撮影

遠い風景やガラス越しの遠景などを撮影するときに使います。

PENTAX[®] ESPIO105S クイックガイド



フィルムの途中巻き戻し

1. カメラ底面のフィルム途中巻き戻しボタン  をストラップの突起で押します。[巻き戻しが始まります]
2. 巻き戻しが終わると、モーターは止まり表示パネルの  が点滅して知らせます。
3. 表示パネルの  の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

* 途中巻き戻しは、電源がON、OFFどちらでも可能です。

- ・ 旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリが展示され、お手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。
1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店が使用説明書に記載されている最寄りの当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口へ直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただくと原因分析に役立ちます。
 2. 保証期間中〔ご購入後1年間〕は、保証書〔販売店印および購入年月日が記入されているもの〕をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
 3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
 - ・ 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
 - ・ 当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解による故障。
 - ・ 火災・天災・地震等による故障。
 - ・ 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等）や手入れの不備（泥・砂・ホコリ・水がぶり・ショック等）による故障。
 - ・ 保証書の添付のない場合。
 - ・ 販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
 4. 保証期間以後の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
 5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間は目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能な場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
 6. 海外旅行をされる場合国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社サービス窓口でお持ちの保証書と交換に発行しております。〔保証期間中のみ有効〕

お問い合わせは下記の窓口へ

●カメラ製品に関するお問い合わせ（ホームページアドレス <http://www.pentax.co.jp/>）

ペンタックス お客様相談センター

〒174-8639

営業時間 午前9:00～午後6:00（土・日・祝日及び弊社休業日を除く）

東京都板橋区前野町2-36-9

☎03(3960)3200(代)

☎0570-001313

☎03(3960)0887 デジタルカメラ専用

●ショールーム・写真展・修理受付

ペンタックスフォーラム

〒163-0401

営業時間 午前10:30～午後6:30（年末年始及び三井ビル点検日を除き年中無休）

東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル1階（私書箱240号）

☎03(3348)2941(代)

●修理受付

ペンタックス

札幌営業所お客様窓口

〒060-0010

営業時間 午前9:00～午後5:00（土・日・祝日及び弊社休業日を除く）

札幌市中央区北10条西18-36 ペンタックス札幌ビル4階

☎011(612)3231

仙台営業所お客様窓口

〒981-3133

仙台市泉区泉中央1-7-1 千代田生命泉中央ビル5階

☎022(371)6663

名古屋営業所お客様窓口

〒461-0001

名古屋市中区泉1-19-8 ペンタックスビル3階

☎052(962)5331

広島営業所お客様窓口

〒730-0851

広島市中区榎町2-15 榎町ビュロ3階

☎082(234)5681

福岡営業所お客様窓口

〒810-0802

福岡市博多区中洲中島町3-8 パールビル2階

☎092(281)6868

●直送修理受付・修理に関するお問い合わせ

ペンタックスサービス株式会社

東日本修理センター

〒175-0082

営業時間 午前9:00～午後5:00（土・日・祝日及び弊社休業日を除く）

東京都板橋区高島平6-6-2 旭光学工業(株) 流通センター内

☎03(3975)4341

西日本修理センター

〒542-0081

大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階

☎06(6271)7996

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。

お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

三宅坂ビル3階 ☎03(3580)0336



旭光学工業株式会社

〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9

ペンタックス販売株式会社

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

☆この説明書には再生紙を使用しています。

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。 02-200110